

2012年
12月議会

市長選挙での中家候補の公約こそ 市民のくらしと未来を守る確かな提案



10月の市長選挙で、共産党は中家治子さんを推薦、蝦名市長と一騎打ちの選挙を闘いました。村上かずしげ議員は、市議会12月定例会の一般質問で、中家治子さんが提案した

津波からの避難施設として活用できる
公営住宅の建設
子どもの医療費の無料化制度の拡大
少人数学級の市独自の拡大

の3つの実現を求めました。また、全国学力テストの学校順位の公表につながりかねない基礎学力条例（公明党議員などによる議員提案）に反対の立場から質問しました。



新「鳥取南団地」を津波避難所に

平地ばかりで津波が来たら逃げるところのない西部地域に、「万が一のときに津波避難施設にも使える市営住宅を建設すべき」とずっと質問してきました。

実は、鳥取神社近くの市営住宅・鳥取団地が老朽化し、道営新富士団地向かいに新しい市営住宅をつくる計画が進んでいます。そこで村上議員は、この新「鳥取南団地」を津波避難施設の機能をあわせもつたものとして建設するよう提案しました。

蝦名市長も「来年度、実施設計をする鳥取南団地についても避難機能の付加について検討する」と前向きな答弁をしました。

続いて村上議員は、「こうした地域の津波対策こそ急ぐべきで、近隣に高い建物も多い駅周辺の整備は行うべきではない」と質問しました。

蝦名市長は、「防災の視点から新たな検討

が必要になった。様々な点から防災機能を検討したい」と答えました。鉄道高架も、駅舎の高層化も多額の事業費がかかり、市の財政を圧迫します。はたして市の財政は大丈夫なのでしょうか。



防災まちづくり拠点施設は高台に。防災の拠点施設そのものについては、私自身は必要なものとの認識していますが、建設場所が市役所横ということについては反対です。この場所では、最大級の津波が襲来した場合には、防災まちづくり拠点施設はほとんど使えなくなりそうです。

本庁舎の電源の受電・配電施設等が整備されるとのことですが、最大級の津波が起きるような大災害では、長期の停電は避けられません。自家発電も限界があります。交通も遮断されます。

私は生涯学習センターの近くなどの高台、ここまでは津波は来ないわけですから、こうした高台に防災拠点施設は建設すべきと考えています。

<他にもこんな質問をしました>

愛国浄水場が最新方式（膜ろ過方式）で建て直しされることになりましたが、浄水場の民間委託はしないことになりました。中小企業の資金繰りを支えていた金融円滑化法の失効を前にして、法の延長と市としての金融対策の強化を求めました。災害時に上下水道料金を減免する制度を整備するよう求めました。住宅エコリフォーム助成事業について、25年度は予算を増額するよう求めました。